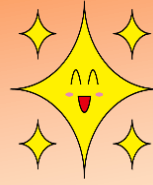


秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

地域支援だより

きらりNet



令和5年9月7日

第135号

秋田県立秋田きらり支援学校

地域支援部

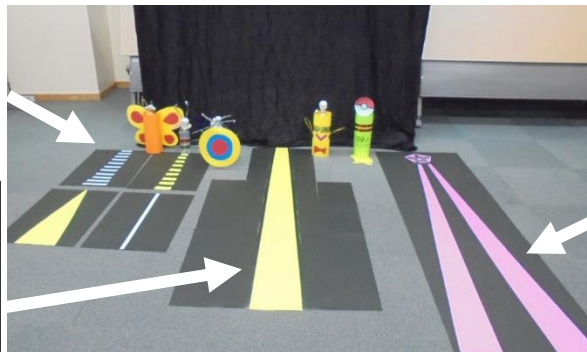
児童生徒が「見る」ための教材・教具の工夫～自立活動研修会から～

児童生徒と学習を進めていく中で、「見えているはずなのに見ない、一体どのような支援があるだろうか」という質問がORT支援を希望する先生方から多く寄せられます。そこで今年度は、「見えているのに見てくれない子どもの理解～注目しやすい環境・教材づくりを考える～」をテーマに、視覚支援学校の田中敦子視能訓練士をお迎えして、自立活動研修会を行いました。研修会では、『「見える」と「見る」は大違い』『「視力」ではない「見る力」』という講話の他、演習を通して児童生徒が「見る」環境整備、教材教具の工夫について考えました。

演習〈注目しやすい環境を作ろう〉テーマ：ピン倒しの「ピン」と「レーン」を作ってみよう。

このように段階的になっているのはとても見やすいと思われる。

縁のきらきりテープは注意を引くが、そこに視線が集中しないか？



「レーン」作成の観点
○児童生徒がピンに注意してボールを投げるような工夫

線が目立っていて見やすい。ただ二本に分かれているため視線が分散されるのでは？



倒れると音がするように鈴が付いている。

的当てのようになっていて見やすく活動が分かりやすい。



倒れると・・・ミニオン登場！

「ピン」作成の観点

- 黒い背景に目立つもの
- 倒れたことが児童生徒自身分かるもの
- 児童生徒が喜びそうなもの
- 倒れやすいもの



モールが揺れることで、興味を引く。児童生徒が好きなもの、キャラクターが使われている。



児童生徒が集中して見る環境設定（周辺の情報量、児童生徒の姿勢等）になっているか、「見る」教材教具を工夫するためにも、日頃の実態把握（どんなものが好きで興味をもって見ているか）が必要であることを改めて気付かされた研修会でした。（文責：自立活動部主任 一関留美子）



田中敦子先生（中央）

秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

秋田きらり支援学校の実践紹介【小学部：準ずる教育課程】

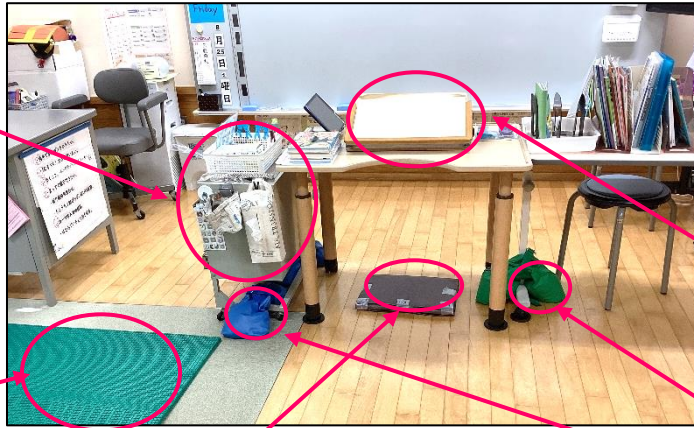
車椅子を使用している児童の教室環境の留意点や工夫を具体的に紹介します。

教室環境を整えるに当たっては、学習の支度や片付け等を自分でできるような配置、本人が学習に取り組みやすいツール等について、本人と相談をしながら進めてきました。今後は、車椅子から学習椅子、マット等へ自分で移乗する練習を取り入れるため、更に教室環境を改善していく予定です。

(文責：蔭山佐智子、藤原恵理子)



自分で学習の準備（教科書や道具の出し入れ）ができるよう、机の脇に棚やフック等のコーナーを設置しています。



ノートやプリントを書くときに書見台を使用しています。(本人が書きやすい方法として選択)

車椅子から降りてストレッチをしたり休んだりできるよう、マットのスペースを作りました。

学習椅子に座る場合、安定した座位を保つために、足底を床にしっかり設置させます。必要に応じて足台を使います。

キャスターテーブル等の動く物には重し(砂袋等)を乗せて、安全対策をしています。



教育専門監のつぶやき

教室は、児童生徒が学校生活の大半を過ごす拠点となる場所です。児童生徒の実態や育てたい姿に応じて教室環境(学習環境)を整えることが大切です。

自分で行動できるようにスケジュールや手順を示す、安心できるような掲示物で温かい雰囲気を作る、授業に集中できるように刺激を最小限にする、活動の切り替えができるよう教室をいくつかのエリアに分ける、等々、児童生徒の実態に応じて『意図』のある教室環境になっているか見渡してみましょう。また、肢体不自由児や病弱児の在籍する教室環境として、次のことを再確認してみましょう。

～上記の実践のポイント～

- 机や椅子の高さや広さは合っているか。
- 移動しやすい動線は確保されているか
- 物の出し入れがしやすい配慮はされているか。(高さや配置)
- 危険防止の対策がされているか。(机や棚の角にカバー等)
- 身体を休める場所(ソファや、マットスペース等)はあるか。

安全・安心・学びやすい環境づくりは自立活動と密接に関連しますので、児童生徒の実態が、大事な観点になります。(文責：藤原恵理子)

★本号では「自立活動通信」を添付し、手作り書見台を紹介します。安価で製作できますので、参考にしてください。

教頭 佐藤 茂樹

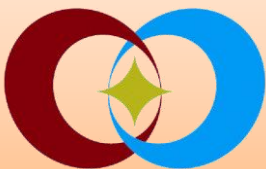
地域支援部主任 高橋 亜紀

住所：〒010-1409 秋田市南ケ丘1丁目1番1号

E-mail：kirisien@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575

「きらりNet」は本校ホームページから閲覧することができます。<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>



「100円ショップの商品で作る書見台」の紹介

書見台は、製品もありますが、児童の実態に応じて、身近な100円ショップの商品で簡単に製作することができます。

そこで、過去に本校の先生が製作した、素敵な書字台を2種類紹介いたします。

一つ目は保持角度を調整できるタイプ、二つ目はより手軽に作れるタイプです。

こちらを参考にして、多数ある100円ショップの商品を組み合わせて、児童生徒の学習場面で役立つオリジナルの書見台を製作してみたいはいかがでしょうか。

①タブレットスタンドを使う

成形板 (220円)



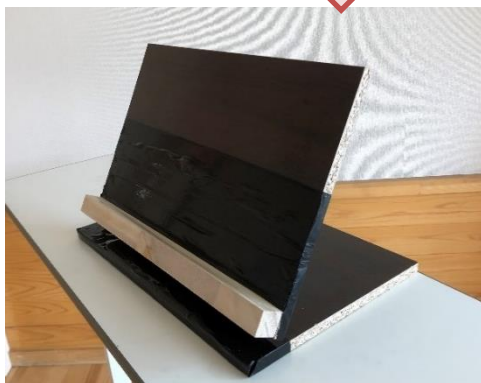
読書台(タブレットスタンド) (220円)



※MDF材：中密度繊維材
安価で厚みや強度もある

読書台の土台と背面板(スタンド付きの板)に成形板を
布テープで固定する。
(※角材は木工用ボンドで接着。)
(※仕上げに黒ビニールテープも使用。)

書見台
完成品



使用例

最大角度(ほぼ垂直)



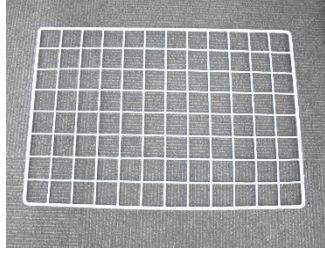
※写真の書見台はバインダーや本を乗せるためにさらに110円の角材を接着しています。

②ワイヤーネットを使う

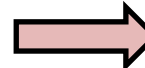
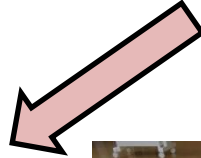
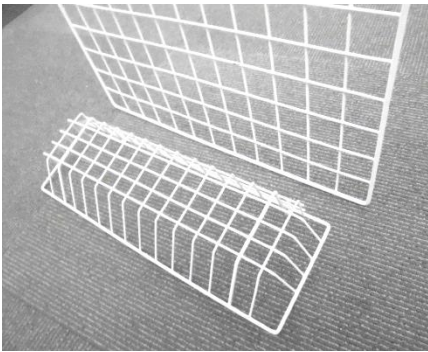
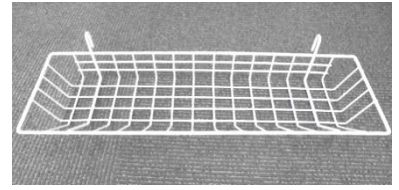
A3 バインダー(220 円)



ワイヤーネット(220 円)



ワイヤーかご(110 円)



ワイヤーかごをひっくり返して、ワイヤーネットに結束バンド(またはテープ、モール等)で固定する。

クリップを使い、下からバインダーとワイヤーネットをはさんで固定する。

土台(ワイヤーかご)に滑り止めを付ける。

使用例



書字台としても活用中!